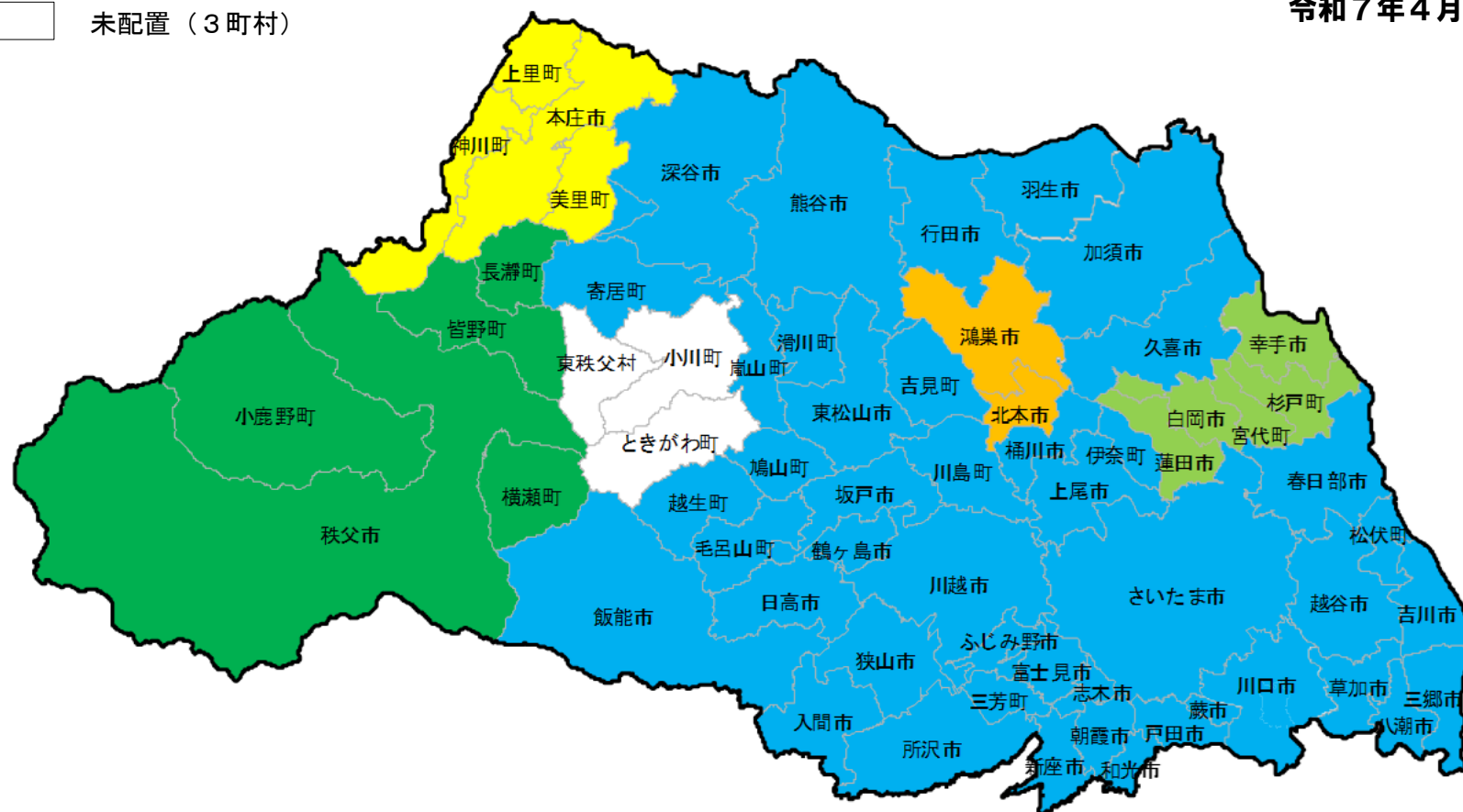
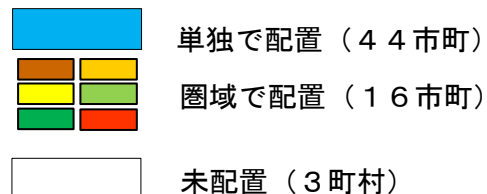


オリエンテーション

医療的ケア児等コーディネーター 配置状況

計 280 人が配置されている

令和 7 年 4 月調査



医療的ケア児等コーディネーター養成研修について

開 始：平成２９年度から実施

対 象：市町村職員、保健師、相談支援専門員、訪問看護師 等

内 容：医療的ケア児等の専門的な知識と経験を有し、関係機関と連携した支援の総合調整をする人材の育成

日 程：５日間（講義１４時間、演習１４時間）

講 師：講義１４人（医師、看護師、当事者家族、行政職員等） 演習１１人（医師、相談支援専門員等）

参加者：以下のとおり

（人）	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
申込者数	４７	３２	５７	コロナの影響で中止	６４	６３	７６	１３４	１２１
受講決定数	４７	３２	４０		３３	４７	５３	１３４	１０５
修了者数	４７	３２	３６		３２	４６	５３	１２８	１０３

修了者数は、計４７７人

様々なコーディネーターがいる

< コーディネーターの実際（H29～R6養成研修修了者374人の内訳） >

- ・埼玉県では、専任でコーディネーターを配置している市町村はなく、基礎職種に基づく業務を行いつつ、医療的ケア児等コーディネーターとしての役割も果たしている。
- ・相談支援専門員をはじめ、様々な職種の方がいる。
- ・また、所属も様々。

職種	人数
相談支援専門員	281人
保健師	88人
看護師	53人
医療ソーシャルワーカー	4人
医師	1人
その他	50人
合計	477人

所属	人数
相談支援事業所等	220人
行政福祉担当課	60人
障害児通所事業所	43人
行政保健担当課、保健センター	32人
医療型障害児入所施設	16人
医療機関	14人
訪問看護事業所	23人
保育所	11人
その他	58人
合計	477人

- ・それぞれの基本職種、所属、立場を生かして活躍する。

医療的ケア児等コーディネーターの役割

< コーディネーターの役割 >

【国の手引き抜粋】

※医療的ケア児等支援者養成研修及び医療的ケア児等コーディネーター養成研修実施の手引き

医療的ケア児等に関する相談対応、医療的ケア児等のライフステージに沿った支援の調整や関係機関との情報共有、支援に必要な地域資源等の把握・開発など、地域において、医療的ケア児等の支援を総合調整する者を養成することを目的とする。

なお、総合調整する者以外に個別支援に係る調整等を行う者として、医療的ケア児等コーディネーターを地域に養成することを妨げるものではない。

- ・ 総合調整を行う場合もあるし、個別支援に係る調整等を行う場合もある
- ・ ポジションにより、求められる役割は異なる
(配置する市町村の考え方による)

★どのポジションにいても、

相談対応、各支援機関の領域の隙間を埋める作業、つなぎ支援、資源の開拓
は共通すること。

そして、一人ではなく、**仲間を増やしてチームで対応することが大事（連携）**。

医療的ケア児等コーディネーターの役割

< コーディネーターの役割って？ >

・ まずは、自分の業務の中で、

①相談対応

②各支援機関の領域の隙間を埋める作業

③つなぎ支援

④資源開拓

ができることがあるかどうかを考えてみると、手がかかりを得やすい。